

高知県

飛躍への挑戦！
高知県産業振興計画

第84号 2016年7月

農業技術センターニュース

目次		
ラオスにおけるナス遺伝資源の探索	… 1	収穫後の近赤外光照射がナス果実の品質に及ぼす影響 … 4
オオバの新ウイルス病およびシソサビダニの防除	… 2	揺青機の試作とそれを利用した半発酵茶の製造 … 5
土壌くん蒸剤の大気中への放出抑制モニタリング(第2報)	… 3	ショウガ白星病の防除体系 … 6

ラオスにおけるナス遺伝資源の探索



写真 収集したナス遺伝資源

平成25年、我が国は食料・農業植物遺伝資源条約(ITPGR)を批准し、国際的なネットワークに加盟しました。しかし、貴重なナス遺伝資源を保有するアジアの途上国においては、現地政府の政策上遺伝資源には簡単にアクセスできない状況下にあります。そこで今回、ナス遺伝資源の収集・利用を目的として、ラオス政府と共同で平成27年11月10日～24日の計15日間遺伝資源探索を行いました。

参画メンバーは日本から農研機構野菜茶業研究所、新潟県農業総合研究所と当センターの研究者3人、ラオスからはラオス園芸研究センターの研究者2人の計5人で、ラオス北西部の Oudomxai 県および Phongsali 県を探索しました。その結果、近縁種を含め計124点のナス遺伝資源を収集することができました。

収集したナス遺伝資源の果色は緑色や白色が多く、日本で多くみられる紫色の果実はあまり見られませんでした。果形は球形のものも多く、果実の大きさは大小様々でした。また、果実・植物体共にとげのない系統もありました。とげのある系統では長さが1cm程度のとげを持つ系統も見られました(写真)。

収集した遺伝資源の種子は、ラオス園芸研究センターに保存されていますが、今後、諸手続を経て日本のジーンバンクに導入することができれば、品種育成に活用していきたいと思えます。

なお、本探索は農林水産省委託プロジェクト研究「海外植物遺伝資源の収集・提供強化」によって実施されました。

(園芸育種担当 小笠原一真 088-863-4916)